



唱歌の和歌山

～教材としての唱歌、愛唱歌としての唱歌～

南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内

和歌山市西高松 1-7-38

tel.073-436-9500

林 淑 姫

2019年12月6日（金）18:15

南葵音楽文庫閲覧室（和歌山県立図書館内）

明治の音楽教育と唱歌

1. 構想と計画

学制（1872）頒布から改正教育令（1879）を経て「小学校教則綱領」（1881）まで

学制「唱歌」（小学校）、「奏楽」（中学校）「当分之ヲ欠く」

小学校教則綱領 「第2条 小学初等科ハ修身、読書、習字、算術ノ初歩及唱歌、体操トス 但唱歌ハ教授法等ノ整フヲ待テ之ヲ設クヘシ」第24条 唱歌 初等科ニ於テハ容易キ歌曲ヲ用ヒテ五音以下ノ単音唱歌ヲ授ケ中等科及高等科ニ至テハ六音以上ノ単音唱歌ヨリ漸次複音及三重音唱歌ニ及フヘシ凡唱歌ヲ授クルニハ児童ノ胸膈ヲ開暢シテ其健康ヲ補益シ心情ヲ感動シテ其美德ヲ涵養センコトヲ要ス」

2. 制度の形成～普及に向けて

文部省「音楽取調掛」創設（1879）から「大祭日祝日儀式唱歌」制定（1893）まで

教材『小学唱歌集』（1882～84）、教員養成のための府県派出伝習生制度（1882）、教育勅語と第二次小学校令（1890）、「大祭日祝日儀式規程」（1891）と「大祭日祝日儀式唱歌」制定（1893）。民間の唱歌集の刊行。

【和歌山】唱歌教育への取組みは明治20年代早々に開始される。1885（明治18）年に音楽取調掛での伝習を修了した2人の教師が相次いで和歌山県尋常師範学校に赴任した。愛知県派出伝習生恒川鏝之助（1868－1914）と三重県伝習生金津鹿之助である。和歌山への赴任時期は恒川が早く1888年（～91年）、金津は恒川と入れ替りで三重県尋常師範学校から和歌山に赴任した。和歌山における唱歌教育はこの二人の先達によって進められた。とりわけ、恒川は赴任中に『帝国唱歌』『学校歌曲集』などを編み、和歌山市の書肆五稜堂（平井文助）より刊行。初期楽譜出版としても注目される。

*『和歌山県教育史』によれば、小学校「唱歌」科加設は明治20年代末。

3. 唱歌と軍歌の大衆化

日清戦争開戦（1894）から第三次小学校令（1907）まで

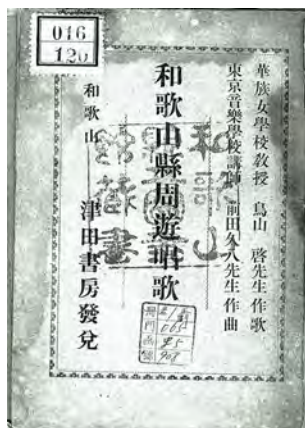
日清戦争を契機とする軍歌集とそれに続く唱歌形式による歌の刊行によって「唱歌」は学校の外へと広がる。大和田建樹作歌、多梅稚作曲『地理教育鉄道唱歌』全5集（1900）はその典型である。『小学唱歌集』に対する批判も広がり、瀧廉太郎『幼稚園唱歌』、田村虎蔵、納所弁次郎『教科適用幼年唱歌』などこどもの生活感覚に即した言文一致唱歌集の刊行が相次ぐ。1907年の第三次小学校令によって唱歌は義務教科とされ、教科書『尋常小学唱歌』の編纂計画が進められて（1911年刊行開始）、次の時代へと引き継がれる。

【和歌山】恒川鏝之助作歌作曲『和歌山県唱歌』（三宅文昌堂 1901）*資料未確認
鳥山啓作歌、前田久八作曲『和歌山県周遊唱歌』（津田源兵衛（津田萬壽堂）1901）

地理教育鉄道唱歌 第5集 関西、参宮、南海各線
 大和田建樹作歌、多梅稚ほか作曲 (大阪 三木楽器店 1900.10) *歌詞 64節 (日本近代音楽館蔵)



和歌山県周遊唱歌
 鳥山啓作歌、前田久八作曲 (津田源兵衛 (津田萬壽堂) 1901)
 *3部構成 (14, 14, 6 節)、それぞれに付曲。
 (和歌山県立図書館蔵)



其一
 和歌山市及び
 海草、那賀、
 伊都の三郡



其二
 有田、日
 高、西牟婁
 の四郡



其三
 田辺港よ
 り和歌山
 港に至る
 海路

鳥山啓 (とりやま ひらく 1837-1914)
 田辺に生まれる。田辺藩士鳥山純昭の養子となり、漢学、本草学を学ぶ。のち本居内遠に就いて国学を修める一方、天文学、地理学、英語などを習得。和歌山師範学校教師、和歌山中学校教師を務め(理科、国学)、中学校時代の教え子に南方熊楠がいる。1886年上京、華族女学校教授となる。瀬戸口藤吉「軍艦(軍艦行進曲)」の作詞者としても知られる。

前田久八 (まえだ きゅうはち 1874-1943)
 東京・神田に生まれる。東京音楽学校卒。ピアニストとして活躍するとともに、歌劇《新曲残夢》などを作曲。島崎藤村作詞「明治学院校歌」の作曲者でもある。

恒川鑠之助 (重光) (1868-1906)
 名古屋生まれ。尾張藩楽家恒川家第七代。音楽取調掛伝習生として西洋音楽を修め、師範学校勤務を通して唱歌教育の指導、普及にあたった。著書『音楽入門』および『学校歌曲集』(オルガン伴奏)『帝国唱歌』をはじめとする著作10数書を残す。